

「きりり人。」

ぬかが 額賀
ゆうすけ 悠介さん

社会福祉法人正和会
特別養護老人ホーム成華園
経営企画課 課長



社会福祉法人正和会は、特別養護老人ホームのほか、デイサービスセンターや居宅介護支援事業所を運営する社会福祉法人です。

額賀悠介さんは、経営企画課長として全般的な法人運営業務を担当しており、特に職場環境の改善や地域との連携に力を注いでいます。

また、ケアマネジャーとしての業務を通じて、利用者や直接接するほか、介護職員初任者研修等の講師となり様々な立場の受講生と関わるなど、法人運営から介護の現場での業務まで、幅広く、多くの方と関わりながら活躍されています。

「この仕事との出会い、やりがい」

額賀さんは、「日々の仕事を進める上で、数値目標を立て、そこにやりがいを見出しています」と言い、法人運営に携わる者としての冷静さを感じました。

社会福祉を学び、卒業後は都内の社会福祉法人にて介護業務の現場で9年にわたって勤務するなど、長期に、様々な経験を積んでいる額賀さんですが、「劇的な体験を通じて福祉の道を歩んできたわけではない」と本人が言うように、その背景が、利用者との関わり以外にもやりがいを見出すという、姿勢に至っているのだと分かりました。

「福祉の仕事もその根幹は、人」



「常に成長をモットーに取り組む仕事への姿勢」

いま力を入れていることについて尋ねると、「人事考課の制度を変えました。事業所では、部署単位、グループ単位での評価になりがちですが、個人評価をするよう改めました。そのためには面談を数多く重ねる必要がありますが、職員が同じ方向を向くためには、意義のあることだと感じています。」

また、障害のある方、外国籍の方の働きやすい環境づくりにも取り組んでいます。

障害のある方の受入れにあたっては、就労支援事業所と情報共有や相談ができる体制を作り、障害の特性にあった働き方ができるよう、事業所内の分業化なども進めました。

「その結果、利用者や直接向き合う介護職員の負担が軽減し、より介護に専念できるということもありました」と言います。

常に成長がモットーの額賀さんですが、「失敗したらやり直したらいい」と人材の確保、処遇改善など、今後も様々な取り組みをしていきたいと意気込んでいました。

と言うように、イメージと実状の差がまだまだあるようです。

また、介護・福祉分野に求める人材としては、「介護・福祉はプロセスが大事です。そのプロセスを楽しむことができる人がいいと思います。どうやってできるかを考えることができる、介護・福祉の枠に収めない、枠を広げて考えることができる人がいいですね。」



「地域に必要とされる法人へ」

「障害のある方の雇用に力を入れたいです。」と額賀さんは言います。

それは社会福祉法人としての使命、地域貢献の一つであるとの考えにあります。それを進めていく中で、「地域にとっても、職員にとっても、利用者にとっても必要とされる法人になるのではないかと考えています。」と額賀さんは考えています。

「いかにプライベートを充実させるかを考えています。」という額賀さんですが、共に働く職員のこと、利用者のこと、そして地域のことを考え、前向きに仕事に取り組む「きりり人」です。



「どんな状況でも楽しめることが大事」

現在の業務での課題は「やはり人材難、人手不足の問題は深刻です。少子高齢社会のなか、それは福祉業界に限らずどの業界でも共通なのでしょうが、特に介護の現場はイメージの問題もあり特に大変ですね。」と言います。

世間のイメージについては、「家族がやっていることの延長、そして体力勝負と見られることが多いですが、実際は知識と経験に基づく専門の仕事」

